

# 琵琶湖をフィールドにした水質と生態系が両立する湖沼管理の研究推進について

【提案先】 環境省

## 1. 提案内容

### 水質の改善と生態系の回復を両立させる湖沼管理に向けた、戦略的な環境研究の推進

- 水質と生態系の回復を目指す湖沼管理について、「統合的アプローチ」の視点に立つ、戦略的な環境研究が必要
- 湖沼の管理方策確立に向けた研究に最適なフィールドである琵琶湖において、環境研究総合推進費を活用した研究の積極的な推進

## 2. 提案の理由

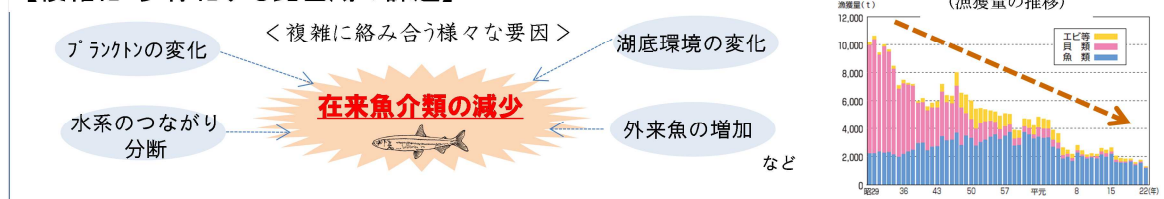
- 「生物多様性国家戦略 2012-2020」では、生態系の持続可能な利用を推進するため、2020 年までに望ましい水質と水生生物等の生息環境を維持するとし、特に湖沼では流域全体を視野に入れた施策の総合的、重点的な推進を目標に設定。

- 多様な利水用途が重なり、諸課題の複合性を有する湖沼の管理には、「統合的アプローチ」\*の視点に立つ、森・里・川・湖のつながりの再生と健全な水循環の確保が必要。そのためには、統合的な環境分野として、湖沼に関する戦略的な環境研究の推進が必要。

※中央環境審議会意見具申「低炭素・資源循環・自然共生政策の統合的アプローチによる社会の構築」

- 近畿の重要な水資源であるとともに、数多くの固有種など豊かな生態系を育む琵琶湖でも、課題が複雑化・多様化しており、多くの水質保全対策や生態系保全施策の展開に加え、琵琶湖環境研究推進機構を設置し、部局横断で総合的視野に立つ連携研究を推進。

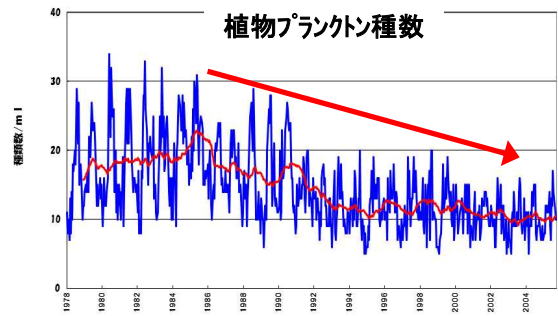
#### 【複雑化・多様化する琵琶湖の課題】



- 国の湖沼の管理方策確立に向けた研究に最適なフィールドである琵琶湖において、環境研究総合推進費を活用した研究の積極的な推進を提案。

## (本県の取組状況と課題)

- 琵琶湖において継続的な調査研究を実施し、難分解性有機物の存在や内部生産による水質への影響、植物プランクトン種の減少といった、生態系の新たな課題を指摘するなどの成果を上げてきた。
- 更に「湖沼における新たな政策展開及び水環境改善施策の早期構築」(H23-25 環境研究総合推進費)では、植物プランクトンに異変が生じる要因が、沿岸帯の形状や底質の状況にあると解明した。
- これらの研究成果に基づき、琵琶湖の複雑化・多様化する課題に対応するため、平成26年度に琵琶湖環境研究推進機構を設置し、行政部局と試験研究機関が連携して、琵琶湖環境の課題解明に向けた研究を推進し、施策立案に繋げることとしている。
- 機構では、「在来魚介類のにぎわい復活」に向けて、平成26年度から「エサ環境の再生」と「生息環境の再生」の2つの視点で、在来魚介類の減少要因を解明する研究を開始し、平成28年度に成果を踏まえた施策提案を目指している。



### 研究すべき課題整理イメージ（「在来魚介類のにぎわい復活に向けた研究」の例）

